



# 至福の日々

# 大天才、手塚治虫先生のこと

画家 小野寺 純一

私の人生のなかで、これまで経験したことのない新型コロナウイルスの大流行は、世界中を巻きこんで、たいへんなことになっており、家でじっとしていることが最大の防御で拡散を防ぐことから、コロナ禍で戦う人には誠に申し訳ないのですが、世の中が止まっている今、これまで出来なかった仕事場の改造や、断捨離を大決行し、それでも暇があるので、読むたびに感動のぐあいが異なる手塚治虫先生の作品を再読することにしました。名作「火の鳥」は永遠の生命の象徴で、人間たちの運命を描く大作です。「陽だまりの樹」では手塚先生の先祖をストーリーの中心に、新しい時代の幕をひらく若者たちの生きざまが、映画をみているような流れの中に展開され、先生の創造・表現・おもしろさ、圧倒的な力量に、あらためて感動しました。とにかく絵がうまいんですね、手を抜いていないのがコマの中に見てとれます。その膨大な作品群はどうやって生まれたか、手に汗にぎる仕事ぶりは「手塚番・神様の伴奏者」にくわしくありますので読んでみてください。あらまは、版元の出版社から派遣された先生の特別編集者が、原稿を印刷にまわすまでの七転八倒・喜怒哀楽・悪戦苦闘・阿鼻叫喚のもようが、愛情たっぷりに語られて、ものづくりの修羅場が目にかぶようです。手塚マンガのつくられ方は、先生のアイデアのもと、主人公とタイトルが決められ、紙面に物語が流れるようにコマ割りとセリフが書きこまれ、背景や模様さまざま処理など、アシスタントの方々が受けもつという作業になります。ですから先生の創作スピード、メ切という要素が加わると、連日徹夜作業はあたりまえという過酷な状況におちいるのでした。

私の手元に復刻版「鉄腕アトム・電光人間の巻」という昭和30年1月1日発行、雑誌「少年」の別冊付録が手元にあります。内容はけがれのないロボットが、悪い人間によっ

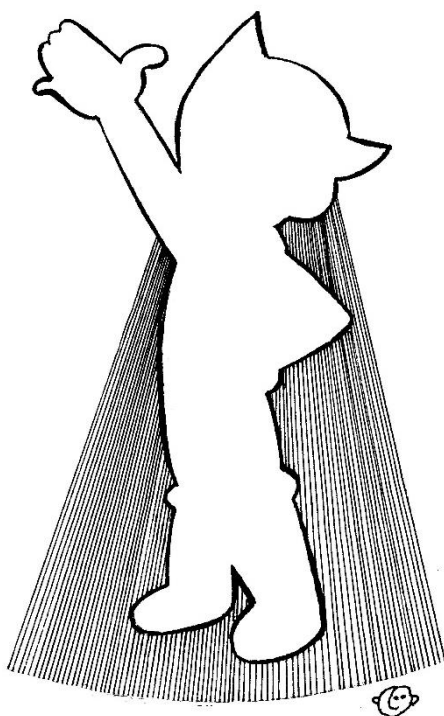
てあやつられ、同じロボットのアトムに破壊されるという同族への悲しみが伝わり、正しいことをやりとげるとは、敵になってしまった方にも哀れが漂い、それぞれの物語があるんだと、ものの考え方の基本を形成する少年期に、アトム・手塚作品に出会えたことは、感謝すべき幸運だったと思います。ちなみにこの作品は、サイボーグ009などの名作を生んだ石ノ森章太郎先生がアシスタントで参加しているんですね。手塚作品に流れる一貫したテーマは“人間賛歌”であり生命への尊厳です。人々の心を励まし続ける手塚作品を、いつの日にかまた手にとってみたい、その時どんなことを感じることができるか、楽しみでもあります。人類はたび重なる疫病の大流行から、産業革命などを経て、現在にいたっています。さてこの新型コロナウイルス禍が終息したのち、どんな世界があらわれてくるのでしょうか。手塚治虫先生ならどんな世界を描いてくれたのでしょうか。地球の新しい未来を、ワクワクしながら待っているところです。

## ●参考文献

『手塚治虫の世界』（別冊宝島） 宝島社

『手塚番 ～神様の伴奏者～』（小学館文庫） 佐藤敏章／著 小学館

『図説 鉄腕アトム』 森晴路／著 河出書房新社



（絵：小野寺純一さん）

---

\*挿絵の掲載にあたっては、手塚プロダクションより許諾を取得しています。

\*参考文献の『手塚番 ～神様の伴奏者～』については、2011年発刊『神様の伴奏者 手塚番 13+2』（単行本）を広瀬図書館で所蔵しています。

\*参考文献の『図説 鉄腕アトム』については、広瀬図書館で所蔵しています。